

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	30人	算数	30人	理科	30人
第5学年	国語	29人	算数	29人	理科	30人

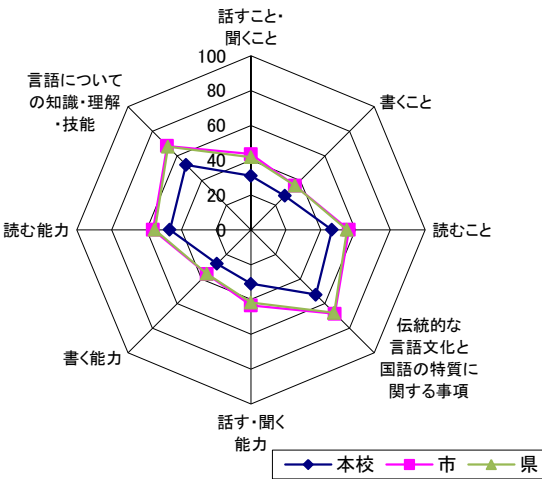
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	31.0	43.5	41.8
	書くこと	27.6	35.9	35.8
	読むこと	46.6	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.7	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	31.0	43.5	41.8
	書く能力	27.6	35.9	35.8
	読む能力	46.6	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	52.7	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

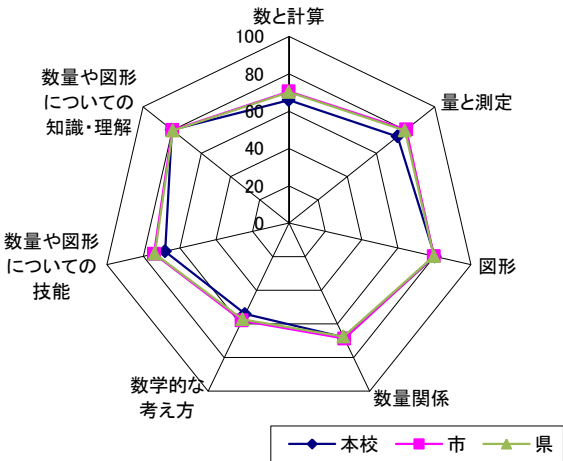
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いにおいて司会者の役割を理解している児童の割合が高い。 ●話の中心に気を付けて聞き、意見を述べることに ついて、県の正答率を下回っている。	・国語の授業を中心に、話し合いの機会を意図的に設定して、相手の話した内容をメモしたり、質問や意見を伝え合ったりすることを通して、話の中心は何かを意識しながら、正しく聞き取れるようにしていきたい。また、朝の会で行っている1分間スピーチや帰りの会で実施している「今日の頑張ったこと」などを活用して、話す・聞く力を計画的に伸ばしていきたい。
書くこと	●招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述することや、意見を基に招待状に入れるべき要素を選択することについて、県の正答率を下回っている。	・いろいろな手紙の形式について理解させ、手紙を書く機会を確保することで、共通する基本的な形式を覚えさせ、お礼の手紙や感謝の手紙などが書けるようにする。また日常の学習活動の中で自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、継続的に文章を書く習慣を身に付けさせ、書く力を高めていきたい。
読むこと	●文章と図を関連付けて読んだり、目的に応じて文章を要約したりすることについて、県の正答率を下回っている。 ●物語文で、叙述を基に登場人物の性格などについて想像して読むことについて、県の正答率を下回っている。	・各教科の授業や家庭学習などで音読する機会を多くし、文章に親しんだり、読んだりする活動を多く取り入れるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりや段落相互の関係をとらえさせるために、接続語や指示語に気を付けながら、段落の要点をまとめたり、段落のつながりを図で表したりして、内容を構造的に理解させる。物語文では、人物の様子や気持ちを表す文や言葉に留意しながら、丁寧な読み取りができるように、教科書に書き込みをしたり、ワークシートに整理したりしながら、登場人物の心情に迫れるようにしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●反対の意味の言葉やローマ字による書き方、指示語の使い方の理解について、県の正答率を下回っている。 ●該当学年の漢字の読み書き、国語辞典の使い方の理解について、県の正答率を下回っている。	・反対の意味の言葉や、ローマ字による書き方については、家庭学習などを通して復習する機会をつくるようにする。漢字の書き取りについては、新出漢字の指導を十分行うとともに、前学年で学習した既習漢字についても、家庭学習などを通して復習する機会をつくるようにする。また、単元ごとに行うテストやステップアップシートなどを活用して習熟を図りたい。 ・国語辞典の使い方については、物語文や説明文において意味調べの活動を取り入れ、言葉の並び方の理解や適切な意味の選択の力を付けていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.0	70.5	70.3
	量と測定	74.5	80.4	79.6
	図形	80.2	79.8	79.7
	数量関係	68.0	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	54.1	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	68.0	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	80.3	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

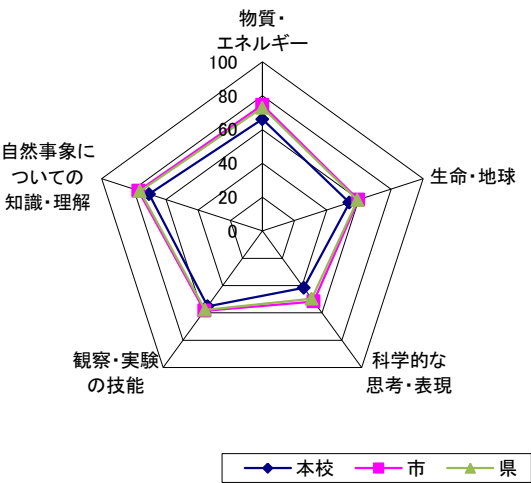
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○真分数＋真分数＝真分数(同分母分数)の計算については、県の正答率を上回っている。 ○1000を単位とした相対的な大きさで捉えることについては、県の正答率を上回っている。 ●3位数＋3位数＝4位数(繰り上がりあり)の計算や3位数×1位数＝4位数の計算、2位数÷1位数＝1位数(余りあり)の計算については、県の正答率を下回っている。	・筆算の位をそろえて計算したり、繰り上がりの数字を書かせたりすることを徹底するとともに、見積もりや見直しなども習慣づけるようにしていきたい。 ・割り算については、商の見当をつけたり、かけ算や引き算を正確に行うことを習慣づけるようにしていきたい。 ・家庭学習などで既習した学習内容を繰り返し行うようにしていきたい。
量と測定	○秒で表された時間を分の単位に換算することは、県の正答率を上回っている。 ●はかりに示された重さを読み取る(2Kgはかり)ことについては、県の正答率を下回っている。 ●ある時刻から一定時間前の時刻を求めることについては、県の正答率を下回っている。	・はかりの読み方については、実際にはかりを使用して目盛りを読んだり、練習問題を行ったりすることで、はかりに示された重さを読み取ることができるようにしていきたい。 ・時刻と時間については、始めの時刻と終わりの時刻、その間の時間を時計の図や数直線に描き表しながら、60進法の仕組みが十分理解できるようにしていきたい。
図形	○円の直径を表す線分を選ぶことについては、県の正答率を上回っている。 ●半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求めることや2つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形を選ぶことについては、県の正答率を下回っている。	・円の半径と直径の関係や正三角形などの基本的な特徴を用いた応用問題を授業や家庭学習などで取り上げ、課題の解き方に慣れるようにしていきたい。
数量関係	○未知の数を□として、数量関係を線分図に表したり、等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求めることについては、県の正答率を上回っている。 ●□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶことについては、県の正答率を下回っている。 ●棒グラフを読み取り、条件に合う曜日を示すことについては、県の正答率を下回っている。	・文章問題においては、キーワードを見付けながら意味をよく考えて式を立てたり、式の意味についても考えたりするよう、繰り返し指導する。 ・棒グラフについては、様々な目盛りや単位のグラフを読み取ったり、描いたりする学習を通して、一層の定着を図りたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.1	74.5	72.9
	生命・地球	54.1	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	41.7	51.6	49.7
	観察・実験の技能	55.2	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	70.5	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○回路を作る際の導線の安全なつなぎ方の理解について、県の正答率を上回っている。 ○虫眼鏡で日光を小さく集めると熱くなることの理解について、県の正答率を上回っている。 ●電氣を通すつなぎ方の理解について、県の正答率を下回っている。 ●実験結果から必要なゴムののびを推測することについて、県の正答率を下回っている。 ●磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことの理解について、県の正答率を下回っている。	・「風やゴムのはたらき」の学習の際に、ゴムののびと車の走る距離との関係について、実際に具体物を操作することで学習内容をもう一度確認させる。 ・「電氣のはたらき」の学習の際に、具体物を操作させるなどして、回路の意味についてもう一度確認させる。
生命・地球	○昆虫の体の色とすみかの記録をもとに考察することについて、県・市の正答率を上回っている。 ○昆虫の育ち方には一定の順序があることの理解について、県・市の正答率を上回っている。 ●観察記録をもとに昆虫を選択し、その理由を説明することについて、県・市の正答率を下回っている。 ●植物の育ち方をもとに適切なグラフを選ぶことについて、県・市の正答率を下回っている。 ●かげの長さを調べ、その結果から日時計の製作を改善することについて、県・市の正答率を下回っている。	・身近な自然や生き物の観察については、4年生でもう一度学習をする機会がある。実際に観察をする活動を通して学習内容を定着させていきたい。 ・「かげのでき方と太陽」の学習の際に、かげができるときの太陽の向きやかげの長さなどについて、実際の観察を通して学習内容をもう一度確認させるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習や復習をしている。」という問いに対しての肯定的回答割合が高い。

○「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」という問いに対しての肯定的回答割合が高い。

○1ヶ月に読む本の冊数が多く読書に親しんでいる傾向が見られる。

●ゲームをする時間や、テレビやビデオ・DVDを視聴する時間が長い。これまでも、学校で子どもたちに指導したり、家庭に向けて保健だよりや学年だよりなどで協力をお願いをしたりしてきた。これからも、ノーゲームデーの推進、懇談会で話題にするなど、いろいろな取り組みを行っていきたい。

●勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じる、疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい、できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしているという質問内容に肯定的な回答の割合が県よりも低い。各教科の授業では、児童の興味をひく課題の提示の仕方や関心の高まる学習方法を工夫するなどをさらに改善していききたい。また、課題へ取り組む際には、自力解決の場を多く取り入れるようにして主体的に学習に取り組もうとする意欲を育てていききたい。